

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和元年度 岩手県意見交換会（第3回） 議事概要

令和2年1月20日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日時】令和2年1月20日（月）13:00～15:00

【場所】復興庁 岩手復興局 4階会議室

【出席者】

<副代表団体>（順不同）

株式会社岩手銀行、岩手県復興局復興推進課、岩手県沿岸広域振興局経営企画部産業振興室、
国立大学法人岩手大学、特定非営利活動法人いわて連携復興センター、復興庁総合政策班、
復興庁岩手復興局

<連携対象団体>

公益財団法人いわて産業振興センタープロフェッショナル人材戦略拠点 ※議事概要の5.1まで参加

<事務局>

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 開会の挨拶

次年度は復興・創生期間の最終年度でもあるため、これまでの振り返りを行いつつ、今後何を重点的に取り組むかという議論もより具体的に進むことになると思われる。次年度の意見交換会においてもそのことを念頭に置きつつ、引き続きご協力を賜るよう、復興庁より挨拶した。

2 各団体の取組紹介

各参加団体より、取組紹介資料（資料2-1以降）をもとに取組を紹介した。

3 「実践の場」開催報告

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに以下の点を説明した。

① 意見交換会の概要

② 「実践の場」企画背景

③ 「実践の場」概要

④ 「実践の場」開催結果

（参加者の特徴、参加目的・満足度、効果測定、参加者からの意見）

4 次年度の意見交換会で扱うテーマ

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに、次年度の意見交換会では「東日本大震災10年目に向けて」をテーマとすることや予定案を説明した。

5 意見交換

5.1 「実践の場」の振り返り

事業成長を目指して取り組んでいる経営者・次世代リーダー向けに企画したが、実際の参加者は自社・自団体の課題が整理できておらず、適切な施策を見つけられていない現役経営者が多くいた。そのような方には個別に相談を受けて課題を深掘りする方法が望ましかったが、セミナーでの情報共有の仕方や相談会での時間配分等、改善が必要な点があった。

次年度もこのテーマを掘り下げるのかは別の論点だが、経営者の支援にフォーカスするなら、個別相談で課題の整理や適切な支援策を提案する形を重視する方がよい、というのが振り返りから見えてきた示唆である。

<主なご意見>

- ・ 「実践の場」当日の参加者は、ワーカーとリーダー層を求めている人が半々だったように思う。
- ・ 成約しにくいので他の有料人材紹介会社も岩手の沿岸部には行きたがらない状況概要だが、最近になって、内閣府が全国のプロフェッショナル人材戦略拠点に対して兼業・副業人材の紹介を要請し始めたため、沿岸部の支援にも絡みやすくなるのではないかと思う。
- ・ 今回の「実践の場」の参加者はNPOも含めて、お金に関する話が多かった。「支援事業を知りたい」という声も、「お金がかからない支援事業を知りたい」という意味に思えた。そのため、私たちの事業もお金がかからない事業の方が結びつくのではないか。
- ・ ただ交流しよう、ということだけでは来ないことが分かった。また、私自身もそうだったが支援メニューが弱かったように思う。すぐ身につくようなものを情報提供するとか、交流についても何かテーマを設けて議論するなど工夫ができたように思う。
- ・ テーマは分科会のようにする方がよかったかもしれない。参加を見込んでいた人たちにも案内はしたが、分かりづらかったようだった。
- ・ 技術相談や地域課題解決プログラムを紹介したところ、若手人材を活用することに関心は見られたが、具体的な相談はなかった。後半の交流会でも何人かと話ができしたが、話したいという欲求がある方が多かったように思う。自己紹介で終わってしまうことが多く、具体的な話までいかなかったのももう少し時間があつた方がよかった。
- ・ 今回はこれまでの議論を踏まえて事業成長にフォーカスしたが、「事業成長などの前向きな話よりも売上減少など足元の課題が多い」との意見も事前に頂いていた。当日も足元の課題に関する話がよく挙がっていたように思う。
- ・ 一概には言えないが、ディスカッションをしながら課題を整理することが日々の業務の中でまだできていないのかなと思った。結果的に、目の前にある課題は資金不足だったりするので、補助金が欲しいという話に行きがちだったのかもしれない。入り込んで回数を重ねると、

- もう少し課題が見えそうな気がした。みんなの前では話しづらいのもあったと思う。
- ・ 時間の制約があったことに加え、ディスカッション時に参加者は席が固定だったので、欲を言えば参加者もシャッフルできたらよかった。
 - ・ 悩みについては1対1で深く聞いた方が、支援メニューの紹介や課題の深掘りをしやすかったのでは。
 - ・ 個別の相談をしたいというニーズは確かにあったが、時間が区切られており、他の人の前で話すため深い相談までしづらかったように思う。今回をきっかけにして商工会議所等への相談に繋がればいいが、きっかけとしても時間が短かったことが反省点である。
 - ・ 「活用したいと思う支援策を知ることができたか」という質問に対して「はい」と答えた企業は5割、NPOは3割弱であったが、実際に直接話を聞いてみると、「自分に合った支援策」という意味で求めている方が多かった。聞いた話をもとに既存支援策を合った形にして提案すると納得いただけたので、情報のカスタマイズは必要だと感じた。
 - ・ NPOとも当日話をしたが、現状についての説明が多く、具体的に何が必要かはっきりしていないようだった。ただ、お金さえあれば解決できるものもあったと思う。人がすぐ辞めてしまう、給料が低い、右腕人材を雇う財力がない、補助事業が切れてきた、など。

5.2 次年度の取組

10年目以降も引き続き岩手県沿岸部のことを知ってもらい・関心をもってもらうことが重要という意見が多く挙がった。

県外に対しては、応援職員等これまで支援に携わってくださった方々やシンポジウム等で訪れる県外の方々を連れて、沿岸部のハード面の復興と、ノウハウ等ソフト面で得たものをNPO等から直接話して伝える取組が考えられた。

県内に対しては、若手・担い手育成、地域活性化の観点で大学生向けに伝統工芸品等の地場産業とも絡めながら地域貢献の経験を積ませる機会を創出する案も挙がった。また、行政職員等、県内の人材であっても震災時の経験・ノウハウがうまく引き継がれていない恐れがあり、そうした意味でのノウハウ伝承も必要という意見もあった。

<主なご意見>

- ・ 東日本大震災の経験により、次に同じような災害が起こった時に活かせるノウハウも被災地で生まれたと思う。ハード面の視察もいいと思うが、加えてNPOによるコミュニティ形成支援などのノウハウも伝えていく場として活用できたらいい。
- ・ 岩手大学の1年生は全員、初年次学習で沿岸部に見学に連れて行っている。岩手県の大学生なのに沿岸部に一度も行ったことない・自分の言葉で震災について話せない、という状況は避けたかったのが理由。施設やNPOを訪れてもっとリアルな話を聞けると良い。東日本大震災以外でも、地域の学生が学べる機会をつくりたい。単純に知識を学ぶだけでなく、地域にいかに関与できるかを考え、学生のうちに失敗も成功も経験してもらいたいと考えている。そういう場として使わせてもらえたら有難い。
- ・ シンポジウムと沿岸部を訪れるツアーを組み合わせる場合、シンポジウムの参加者や関心事

によってツアー内容を考えられるといいと思う。

- ・ ノウハウの発信や伝承に関する話が先程挙がっていたが、誰に伝えていくのかが論点と思う。伝えていく先は、被災経験のない自治体だと考えていたが、10年も経つと東日本大震災時の経験のない県庁職員も増えてきているので、内部にも伝えていかないといけない。10年目に向けてノウハウを継承していくという視点は必要だと思う。
- ・ 「10年の節目で終わった」と県外の人に線を引かれてしまうのを恐れている。「ここまでできたけどまだ」という現状を理解してもらい、引き続き復興への参画をお願いしたい。参画いただくことでノウハウの伝承もできる部分があると思う。
- ・ 防災の観点での連携も考えられるのではないかと。また、沿岸部の魅力を内陸部に伝える機会も必要だと思う。民泊や体験系の活動などを、どちらかという一般の方向けに情報発信する機会があるとよいと思う。
- ・ 岩手大学の初年次学習のフィールドワークとは時期の兼ね合いで難しいかもしれないが、県の施設だけでなく、NPOの活動紹介などもできるのではないかと。また、若手・担い手育成という意味では地域活性化の文脈で岩手銀行も関わりやすいのではないかと。
- ・ 沿岸局としては、人口が減り続けて地域内の市場が小さくなっている状況で、外から人に来てもらい買ってもらうことが大切と認識している。特に次年度には三陸沿岸道路が全て開通するため、仙台から入って来る人を意識している。その際に陸前高田の津波伝承館までは来ると思うので、そこからさらに北に上げたい。津波伝承館へ来た方や、県外への情報発信に注力して、少しでも来る人を増やしたい。
- ・ 本日いただいた意見の中では、県庁の復興ツーリズムや、岩手復興局のハード面を回るという企画は近いように思われた。そこに岩手大学のフィールドワークや、岩手銀行が行う伝統工芸品の販売会、いわて連携復興センターも関わるシンポジウムで来訪される方の視察などと組み込むことがアイデアとして挙げられた。
- ・ 形式はどんな形になるか分からないが、引き続き沿岸部のことを知ってもらう・関心をもってもらうことが重要だと思う。

6 閉会

次年度の意見交換会の取組は本日の議論をインプットとして検討する。

次年度の第1回意見交換会は6月頃に開催予定。場合によっては第1回開催前にご意見を伺う可能性があるため、その際にはご協力をお願いしたい。

以上